

福田康夫日本国政府代表ステートメント

(「世界人道サミット」全体会合)

御列席の皆様、

いま、世界の深刻な現場で苦しんでいる方たちが自らの国を支え、自らの足で「もう一度立ち上がろう」という「意思」を持つために、私たちには何ができるのでしょうか。

先ずは、現状の「哀しみ」を少しでも和らげるために手を差し伸べること。そして、歩むべき未来に光を当てることで、「不安」の暗闇を追い払う。その上で、自らの手で自らの国の未来を切り開くための「力」を、手に入れて貰う。

こうした願いを込め、今般、日本は新たに、中東・北アフリカにおける社会安定化と全ての人を支える成長を実現するための支援内容を固めました。

日本は、今後３年間で２万人の中東各国の人材育成に協力します。また、故郷を離れ、教育を中断されてしまったシリアの若者の未来のために、シリア人留学生の受入れを拡大します。

さらに、難民支援の現場においては、ＪＩＣＡの人道支援チームによる人的貢献も拡大していきます。こうした諸々の支援は、今後３年間で約６０億ドルの規模となります。

また、そもそも深刻な人道危機を起こさないため、紛争の予防や解決に向けた取組も大切であり、各国政府、企業、ＮＧＯ等国際社会の全てのステークホルダーが結集すべきと考えます。

日本は、アジア地域において、平和国家としての歩みを続けております。この方針の基に、アジア地域で人道危機を起こす原因となる紛争を起こさないことに全力をあげることを、この場で改めて、表明いたします。